

### 3. やわらかい心とからだをもち 素直に行動できる子をめざして

てんかんの障害をもつM児は、身辺処理能力はかなり高く、からだを動かすことが好きであるが、こだわりが強く、気に入らないことがあると対人関係でトラブルを起こしたり、指示に素直に従えないなど、情緒、社会性の面で問題をもっている。そこで、好きなことを通して意欲を持たせることによって、心の柔らかさを育て指示に従って行動（自己コントロール）できる力をつけたいと考えて取り組んだ経過を述べたい。

#### 1. 児童の実態

(1) 生育歴 M. T S 53. 6. 15生まれ 4人兄弟の長男  
てんかん (1才9か月時に熱性けいれんをおこし、てんかん  
と診断される。以来、現在まで服薬)

#### (2) 発達検査による実態

##### ① 遠城寺式乳幼児発達検査

(S 63. 9実施)

移動運動	手の運動	基本的習慣	対人関係	発語	言語理解
4 : 4	4 : 4	4 : 4	3 : 4	4 : 0	3 : 8

・ だいたい4才程度の発達を示す。

##### ② ムーブメント教育プログラムアセスメント

・ MEPAプロフィール表でも5段階  
(4才程度)まではマスターしている。  
・ プロフィール表、クロスインデックス  
表での到達度をみると、運動、技巧面  
が高く、言語、社会性の領域が少し低  
いといえる。

##### (3) 性格、行動上の特性

- ・ 見通しを持つと物事に意欲的に取り組む。
- ・ 身体を動かすことが好きで、お手伝い等を好んでする。
- ・ 初めての場面で緊張が強くなり、じっとつっ立って動かなくなる。反面、興奮しすぎて自制がきかないことがある。
- ・ こだわりが強く気分転換がはかりにくい。
- ・ 気に入らないことがあると、指示に素直に従えず、友達をたたいたり悪口を言ったりする。
- ・ 認知力に劣り、言語理解、社会性(特に対人関係)に問題がある。

MEPA プロフィール表

#### 2. 取り組みの概要

##### (1) 指導仮説

・ 好きな事を通して意欲を持つ。
・ 認知力を高め、わかって行動。
・ 模倣をして身体を動かす。

※緊張感やからだのかたさをときほぐして、心の柔らかさを育て、指示に従って行動(自己コントロール)できるようにする。

(2) 指導の方針

- ① 好きなお手伝いや当番活動を通して、意欲的に行動できるようにするとともに、働く力、社会性を身につけさせる。
- ② カード学習、数の学習を通して言語理解力や認知の力、集中力をつけ、わかって行動できるようにする。
- ③ サーキット、抽出養護・訓練、合同体育を通して、身体意識や筋力、調整力を高め、自分で思うようにはからだを動かせる力をつける。
- ④ 遊びや日常生活指導を通して、好ましい対人関係の持ち方を身につけさせる。

3. 実践例

(1) お手伝い、当番活動を通して

- ① 給食当番でのおぼん、おかず配り係
  - ・学習の切り上げがさっとできず、指示されても片づけに取り掛かれなかったり、不必要なことをして教室を汚したりといった行動をとることがあった。
  - (ねらい) ・自分の仕事として意欲的に取り組む。
  - ・認知の力、集中力をつける。

めあて	5月	2月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・係の仕事を果たす</li> <li>・意欲的に行動する</li> <li>・食器に適量入れる</li> <li>・手元をよく見る</li> <li>・6まで数える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何度も促されても片づけをしない。</li> <li>・食器に一杯になっ ていても、追加し ようとしてきかず</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食を合い言葉に、片 付けようとする。</li> <li>・教師の顔を見て、量 を確認しながら入れる。 そばについていないと まだ満杯にする。</li> </ul>

② おやつ、お茶配り係

- ・「勉強の時間だから遊びをやめましょう」「帰りの着替えをしましょう」といった指示に素直に従えないことが多かった。次への行動をスムーズにするため、「皆のおやつを配って」とか、「着替えてから麦茶を入れて」といったお手伝いをさせることにした。
- (ねらい) ・さっさと次の行動に移る。
- ・認知の力、集中力をつける。

めあて	5月	2月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示に従う</li> <li>・さっさと行動</li> <li>・適量入れる</li> <li>・手元をよく見る</li> <li>・1対1、1対2対 応の力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室に入るように 指示しても従わず 一人で外で遊んで いる。</li> <li>・麦茶を入れ過ぎて こぼしてしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「勉強の時間だよ」の 指示で教室に戻る。</li> <li>・教師が指示した線まで お茶を注ぐ。</li> <li>・よそ見をしてこぼすこ とあり。</li> </ul>

③ 花壇作り

- ・1学期は友達とのトラブルが多く、仲間に入れなくて一人で無意味な穴掘りをして遊んでいることが多かった。2学期、学級花壇の手入れをしたり、皆で耕して肥料をいれて花壇作りをしたりした。

- (ねらい) ・友達と仲良く行動できるようにする。  
 ・働く力をつける。

めあて	5月	11月(2月)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と仲良く。</li> <li>・穴掘り遊びを意味のあるものにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前庭の盛り土を掘りかえし、ねこ車で他に運ぶ。</li> <li>・一人遊びが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休憩時になるとすぐスコップを持ち畑を耕す</li> <li>・チューリップの球根を喜んで植える。</li> <li>・チューリップのめか出たのを見て友達と喜び合う。</li> </ul>

(2) カード学習、数の学習を通して

- ① カード学習 — 週に1回、個別の学習の時間に、果物や乗り物、動物など身近な事物の絵カード、文字カードを使ってカード学習を行っている。言語理解力や認知力をつけ、わかって動く行動力のもとを培うことをねらいとして行った。

(11月の実態) 果物10種類のうち、言葉を聞いて正確に選べる絵カードは3種類(もも、りんご、バナナ)である。色や形が似ていると、ふだん見慣れたみかんをかきと、また、いちごをりんごと混同したりすることがある。パイナップルやメロンなどM児が生活の中で接することの少ない果物は不正確である。  
 文字カードを読んで絵カードを選ぶ場合も、ほとんど同じような結果が出た。

集中力をつけることもねらいとしていたが、回数が多くなると集中力がなくなり、不正確になるという結果がでた。また、文字を読む速度は速くなったが、文字や言葉と絵とがなかなか結びつきにくく、今一つ成果があがっていない。実物と関連づけるなどして、生活経験をもっと広げていく必要性を感じている。

- ② 数の学習 — 同じく認知力をつけることをねらいとして、週に1回、他の先生に数の学習を行ってもらっている。

主に、1~30までの数唱をする、数字をよむ、数と物との対応をするといったことを中心としているが、M児の発達を促す上で大切と思われる指をたてたり、指を折ったり、グーパーをするといった、からだを動かすことも行っている。

(2月の実態) 自動車のナンバープレートや電話番号、カレンダーの日付け等に興味を持ち、自分で読んだり尋ねたりしている。まだ、十いくつと、二十いくつとを混同することがあるが、だいぶ正確になってきた。1~5までなら何とか数と物とを対応させて数えられるようになっている。

積み重ねの成果が少しずつではあるがあらわれてきている。しかし、その日の気分によって学習態度にむらがある。

(3) サーキット、抽出養護・訓練を通して

- ① サーキット

リズムに合わせた運動や、遊具を使った運動を通して、身体意識や身体調整力を養いたい。「手を広げて」「イチニ、イチニ」「びよんびよん高

く」といった言語指示に従って身体を大きく動かせるようにしたいと考える。

(10月初の実態)

- ・リズムに全く関係なく先を争うように歩いたり走ったり転がったりする。
- ・四つばいで足の指を使わず、手の平もしっかりつかない。
- ・バランスをくずして、平均台やトランポリンから落ちそうになる。

↓

(12月の実態)

- ・「右、左」等の声かけで少しはリズムを意識。
- ・「手をしっかりついて」の指示で手の平に注意。
- ・トランポリンで腰を曲げなくなった。

指示があると一応気を付けて直しているが、まだリズムに合わない歩き方や走り方をしたり、手が曲がったりすることが多いので、良くなった点をほめ、声かけをして持続していけるようにしたい。

## ② 抽出養護・訓練

2～3学期、週に2回、養護、訓練担当の先生に運動機能訓練を受けた。からだの面で、足腰が弱くバランスが悪い、背筋力や腹筋力が弱く、呼吸の仕方がへたである等々の問題点を持っており、バランスボードやトランポリンを使用しての訓練を受けている。昨年より腕の力が強くなり、呼吸の仕方も少し上手になってきているが、やはりバランス感覚をもっと高め、ていくことや力いっぱいからだを動かす経験を積むことが大切である。継続して行っていきたい。

## 4. 考察及び今後の課題

1学期は自己中心の考えからぬけきれず、指示されても遊びを切り上げられなかったり、片付けができなかったり、友達をたたき、かみつくといったトラブルを起こしたりすることが多かった。先の活動を楽しみにする気持ちを持たせることによって、さっさと次の行動に移れるようになってきつつある。また、すこし能力の高い子のまねをして行動させることにより、2学期後半には、物事(学習)に意欲的に取り組もうとする姿が見られるようになった。しかし、やはり一つのことにとこだわりだすとなかなか気分の転換がはかりにくい、新しい場面などでの緊張感が強く伸び伸びと行動出来ないといった問題点も残っている。

上記の取り組みを継続し、さらに自制、自立の心を育てていきたい。また、良い行動を明確に認めてほめ、自信を持たせて伸び伸びと行動できるようにしていきたい。M児の発達段階からみて、友達の影響を受けやすい時期であると思われるので、好ましい対人関係を育てていきたいと考える。

( F III 季微子 )



(トランポリンをするM児)